

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

使い方 本文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この場面の山は「ぞ～連体形」の係り結び、「給はる（謙譲）」と「給へ（尊敬）」で向きのちがう敬意、「らん（現在推量）」「けん（過去推量）」、そして計略（たばかり）で先陣を取ったという主題です。

あらすじ＝佐々木四郎高綱が頼朝からいただいた御馬は、馬にも人にもかみつく荒馬で「いけずき」と名づけられていた。木曾義仲を討つ軍が宇治川に迫ると、高綱と梶原源景は先陣（一番乗り）を争う。高綱は「この川は西国一の大河だ。腹帯がゆるんで見えますよ、お締めなさい」と声をかけ、梶原がそれを信じて腹帯を締め直しているすきに、さっと追い抜いて川へ乗り入れる。だまされたと気づいた梶原も続くが、高綱は川底に張られた大綱を太刀で打ち切りながら、名馬いけずきで急流を一文字に渡りきる。そして向こう岸で鎧を踏ん張って立ち上がり、「宇治川の先陣ぞや」と大音声で名乗りをあげ、敵陣へ駆けていった。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

【馬の描写】

佐々木四郎が①給はつたりける御馬は、黒栗毛なる馬の、きはめてふとうたくましいが、馬をも人をもあたりをはらつてくひければ、③いけずきとぞ付けられたる。

【腹帯の駆け引き】

佐々木四郎、「この川は西国一の大河ぞや。④腹帯ののびて見えさうは。⑤締め給へ。」と言はれて、梶原、⑥さもあるらんとや思ひけん、左右の鎧を踏みすかし、手綱を馬のゆがみに捨て、⑦腹帯を解いてぞ締めたりける。

【先陣を出し抜く】

⑧そのまに佐々木はつつと馳せ抜いて、⑨川へざつとぞうち入れたる。梶原⑩たばかりれぬと思ひけん、やがて続いてうち入れたる。

【宇治川渡河】

佐々木、太刀を抜いて、馬の足にかかりける大綱どもをふつつと打ち切り打ち切り、生食といふ世一の馬には乗つたりけり、宇治川⑪はやしといへども、⑫一文字にざつと渡いて⑬向かひの岸にぞうち上げたる。

【名乗り】

あぶみふんばり立ち上がり、大音声を上げて名のりけるは、「宇多天皇より九代の⑭後胤、佐々木三郎秀義が四男、佐々木四郎高綱、⑮宇治川の先陣ぞや。我と思はん人々は高綱に組めや。」とて、をめてかく。

語注 給はる＝いただく。目上の人からちようだいする。黒栗毛＝黒みをおびた栗色の毛なみ。ふとうたくましい＝「太くたくましい」の音便形。「太く」←「太う」のワ音便、「たくましい」←「たくましい」のイ音便。あたりをはらつて＝まわりかまわず。くふ＝かみつ。食いつく。いけずき（生食）＝佐々木四郎高綱が源頼朝から賜った天下一の名馬の名。腹帯（はるび）＝鞍を馬の背にとめておくために、馬の腹に回してしめる帯。ゆるむと鞍がずれて落馬する。教科書によつては「はらおび」とルビを振るものもある。お使いの教科書のルビに合わせる。のぶ＝ゆるむ。さうは＝「くますよ・くますぞ」と念を押す、ていねいな言い方（「候（さうら）ふは」の略とされる）。さもあるらん＝なるほどさうである。もつともだ。鎧＝馬に乗るとき足をかける馬具。「踏みすかし」＝鎧を踏んで体を浮かせて。馬のゆがみ＝馬のたてがみ。そのま＝そのあいだ。そのすき。つつと＝さつと。すばやく。たばかり＝だます。計略にかける。大綱＝敵を渡らせないために川の中に張りわたした太いつな。世＝一番。天下第一。一文字に＝まっすぐ一直線に。大音声＝たいそう大きな声。後胤＝子孫。先陣＝戦場で敵陣に一番乗りすること。武士にとって最高の名誉とされた。をめぐ＝大声でわめく。かく＝駆く。馬を走らせる。※本文は『平家物語』巻第九「宇治川の先陣」から、教科書によく採られる場面を五つのまとまりに分けて抜き出したものです。まとまりとまとまりの間には、ここに入っていない部分（梶原の馬「磨墨（するすみ）」についての記述など）があります。

A 語句の意味と読み(1～7)

- (1) ①「給はつたりける」の「給はる」の意味を書け。
- (2) ②「くひければ」を現代仮名遣いの平仮名に直し、「くふ」の意味も書け。
- (3) ③「腹帯ののびて見えさうは」の「腹帯」の読みと、「のびて」の意味を書け。
- (4) ④「そのまに」の意味を書け。
- (5) ⑤「たばからぬ」の「たばかる」の意味を書け。
- (6) ⑥「一文字に」の意味を書け。
- (7) ⑦「後胤」の読みと意味を書け。

B 文法(8～14)

- (8) ①「給はつたりける」の「給はつ」は、もとはどのような形か。音便の名も書け。
- (9) ③「いけずきとぞ付けられたる」の「ぞ」の結びの語と活用形を書け。また「られ」の文法的意味も書け。
- (10) ⑤「締め給へ」の「給へ」の敬語の種類と活用形を書け。
- (11) ⑥「さもあるらんとや思ひけん」の「らん」と「けん」の文法的意味を書け。「けん」は活用形もあわせて書け。
- (12) ⑦・⑨・⑬の三か所の「ぞ」と、⑮「宇治川の先陣ぞや」の「ぞや」とでは、はたらきがどうかうか。⑦・⑨・⑬については結びの語と活用形もあわせて書け。
- (13) ⑩「たばからぬ」を単語に分け、それぞれを文法的に説明せよ。
- (14) ⑪「はやしといへども」の「はやし」の品詞と活用形を答え、「といへども」の意味も書け。

C 主語・指す内容・敬意の方向 (15～18)

(15) ① 「給はつたりける」の敬語の種類を答え、誰から誰への敬意かも書け。

(16) ⑤ 「締め給へ」の「給へ」は、誰から誰への敬意を表しているか。

(17) ⑧ 「そのまに」とあるが、どのようなあいだのことか。本文に即して具体的に書け。

(18) ⑬ 「向かひの岸にぞうち上げたる」の主語は誰か。

D 口語訳 (19～22)

(19) ④・⑤をふくむ 「この川は西国一の大河ぞや。腹帯ののびて見えさうは。締め給へ。」を口語訳せよ。

(20) ⑥・⑦をふくむ 「梶原、さもあるらんとや思ひけん、左右の鎧を踏みすかし、手綱を馬のゆがみに捨て、腹帯を解いてぞ締めたりける」を口語訳せよ。

(21) ⑧・⑨・⑩をふくむ 「そのまに佐々木はつつと馳せ抜いて、川へぎつとぞうち入れたる。梶原たばかられぬとや思ひけん、やがて続いてうち入れたる。」を口語訳せよ。

(22) ⑪・⑫・⑬をふくむ 「宇治川はやしといへども、一文字にぎつと渡いて向かひの岸にぞうち上げたる」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (23～25)

(23) ③ 「いけずきとぞ付けられたる」とあるが、この馬がそう名づけられたのはなぜか。本文に即して書け。

(24) ④ 「腹帯ののびて見えさうは」と佐々木高綱が声をかけたのは、何をねらったのか。説明せよ。

(25) ⑤ 「宇治川の先陣ぞや」と高綱が名乗れたのはなぜか。高綱が先陣を取れた要因を二つ書け。

F 文学史・背景 (本文全体をふまえて答える) (26～28)

(26) この文章の出典『平家物語』について、成立した時代・文学のジャンル・この場面が収められている巻を書け。

(27) ⑭ 「後胤」をふくむ名乗りで、高綱は自分をどのような家柄の者だと告げているか。また、武士が戦場で名乗りをあげるのはなぜか。

(28) ⑮ 「宇治川の先陣ぞや」と名乗った佐々木高綱と、争った相手の梶原源太景季は、それぞれ何という名の馬に乗っていたか。また、その馬は誰から与えられたものか。

【テスト直前チェック】この三つ ①「ぞ」の結びは連体形。③「付けられたる」⑦「締めたりける」⑨「うち入れたる」⑬「うち上げたる」は全部「ぞ」の結び。結びの語と活用形をセットで答えられるようにしておく。②「たばかり」は「だます」。⑩「たばかりぬ」＝「だまされてしまった」。「れ」＝受身、「ぬ」＝完了（打消の「ず」ではない）まで言えると完璧。③敬語は①と⑤で向きがちがう。①「給はる」は謙譲で作者から頼朝へ、⑤「給へ」は尊敬で高綱から梶原へ。ていねいな言葉の中身が計略だ、という読みどころとセットで問われます。(本文にはこのほかにも敬語があります。④「見えさうは」の「さう」は丁寧の「候ふ」、直後の「と言はれて」の「れ」も尊敬に取るのがふつうです。)